

千本の桜で地域を明るくしよう

第15回「徳山桜まつり」が開催されました



館内を埋め尽くす人と、赤石太鼓の披露



すごい雨。4月2日、徳山防災コミュニティセンターで開催された第15回「徳山の桜まつり（主催・商工会徳山支部及び徳山区）」は、あいにくの天気に見舞われました。

しかし、そんな天気にも関わらず駐車場には車が一杯。催し物会場となった館内は、訪れた地区内外の人たちで満席状態です。地元川根高校生による赤石太鼓を始めとして、カラオケ大会、舞踊、フラダンスショー、歌謡ショー、銭太鼓、ビンゴゲーム等、次々と繰り広げられる演目をみなさん楽しんでいらっしゃいました。

そして、屋外では地場産品等の販売を実施。あちこちから活気あふれる呼び声が飛び交っていました。午前の中に品物が売り切れてしまい、早々に片付けを始める店もあったほどです。

雨にも負けず大盛況となったこの催し。そもそも事の起りは大東亜戦争の頃にさかのぼります。戦地へ赴く兵士と、その家族を励まそうと、地元の青年団が立ち上がりました。お茶が忙しくなる前のこの時期、地区に舞台をこしらえて歌や踊りを披露してお祭り騒ぎです。

今のように余興が多い時代ではありません。素人芸ではありましたが、精一杯励まそうと盛り上げたそうです。そして、その舞台の袖には少しでも舞台を

実行委員長の松山さん



桜だから我々が守り伝えていかなといけない。限られた予算の中でやりくりする

のは本当に骨が折れるが、来てくれたお客さんが喜んでくれる内は、できる限りのことをして盛り上げたい。地域のふれ合いの場にもなっているし、徳山以外からのお客さんにも楽しんでもらうことで、内外の交流にもつながっていると思う。この行事が単なる地域の催しではなく、もっと大きなお祭りになってい

華やかにしようと山から桜の枝を切ってきて飾りつけました。次第に山桜が寿命で枯れてしまい、ならば徳山の桃沢の土手に桜を植えていこう、ゆくゆくは千本の桜で地域を明るくしようと住民で協力しあい桜の苗木を植えていきました。年々桜は生長し、その間にも桜を植え続け、今日の素晴らしい桜並木になったのだそうです。



買い物を楽しむ子どもたちと、元気な声が飛んでいた話案座のみなさん



地域に密着した行事、地域を元気にするイベント等、「こっちも写真を撮りに来て！」を募集します。催しの内容や日時、代表者の氏名、連絡先を役場広報担当までお知らせください。お待ちしております。

晴れた日のしだれ桜



くには、予算や人員の確保など課題もたくさんある。でも桜の名所としてだいたい認知されてきた今、町にも積極的に援助を働きかけ、もつともつと、来てくれたお客さんが満足して帰ってくれるようなお祭りを作ってきたい。」

また、「こんな雨になんか負けてられない。」とも。

そして、今回から地元川根高校生のみなさんが赤石太鼓の披露の他にも、お茶の接待や物産品の販売などを頑張ってくれていました。今回が初の試みということで、多少のぎこちなさはあったようですが、それはそれで微笑ましい光景でした。

引率された鈴木先生に、桜まつりに協力することになったきっかけなどを伺いました。

「今回、普段の授業や部活動で学んだ知識や態度などを発表する場として、非常に良い経験になると考え参加させていただきました。商業部・茶華道部による販売や接待の実習を通して、地域とのつながりや実社会における接客マナーなど、本当の意味での「実習」ができたと思います。」



川根高校の鈴木先生

この経験により、生徒が学んだこと、身につけたもの、自分たちの能力に気づいたこと。これらは大きな効果だったと考えます。これからは、生徒が自分たちで考え、実践していけるよう指導できればと考えています。今後も、より積極的に協力・参加させていただければ嬉しいですね。」とおっしゃっています。

ていました。

今回伺いして一番驚いたのは、来場者の年齢層の広さです。ちいさなお子さんからご年輩の方まで、みんな楽しんでる雰囲気伝わってきました。みなさん、桜だけが目的なのではありません。桜も含めた「この催し全体」を楽しんでいるのです。

長い年月をかけ桜を育ててきた努力や、桜まつりにかける想い。頭が下がります。地道に積み重ねていくことが地域おこしの原点なんだと感じさせられました。

これからも地域の元氣な行事として、輪が広がっていくことを期待しています。

昔のことを丁寧に手紙に書いてくださった徳山の桜井さん、取材に協力してくださった実行委員会・川根高校のみなさん、快く応じていただきありがとうございました。次のおまつりでは、一町民としてお邪魔します！

川高生のみなさんが湯茶の接待等に活躍してくれました

